

外為マンスリーレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/11/01

米大統領選挙が大きな波乱要因

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↑	外部要因重視の相場に 予想レンジ: 74.500 ~ 83.000 円	2 - 3
NZドル/円	→	RBNZ 総裁の見解に変化はあるか 予想レンジ: 72.000 ~ 77.500 円	4 - 5
ランド/円	↓	ゴードン財務相リスクに注意 予想レンジ: 7.200 ~ 8.100 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

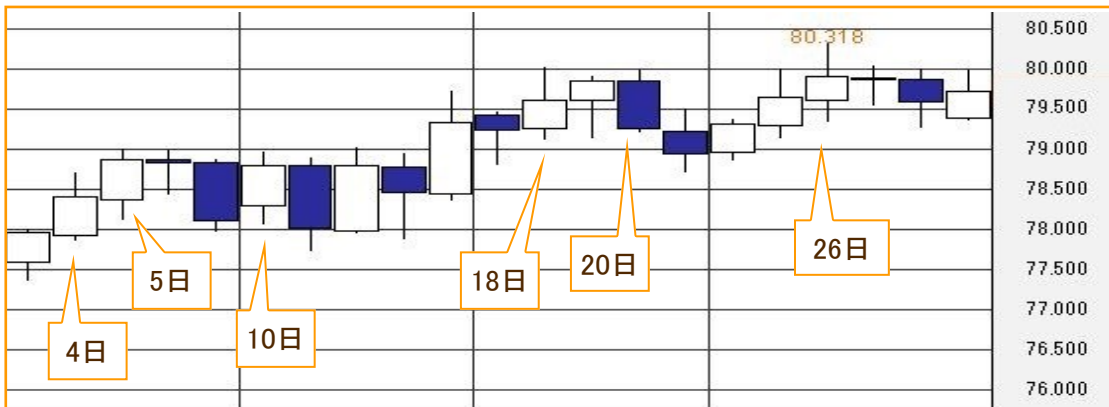
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 10月の推移

AUD/JPY

10月の豪ドル/円相場は77.376~80.318円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.7%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

月初、豪中銀(RBA)が市場の予想通り金融政策を据え置き、その後発表された豪経済指標が良好だった事や、石油輸出国機構(OPEC)の11月総会に向けて減産合意ができるのではとの期待が高まり、原油価格が堅調に推移した事などを背景にジリジリと上昇。18日にロウRBA総裁が「最近のデータは経済情勢が順調である事を示唆」「現在の豪ドルと金利は経済にとって望ましい水準である」とした事で、同総裁が利下げに対してさほど積極的でない様子だった事、そして注目されていた豪7-9月期消費者物価指数が市場予想を上回った事から、翌月以降の利下げ期待も大きくは盛り上がりならず、豪ドル/円のジリ高を支える形となった。



四本値

OPEN	77.608
HIGH	80.318
LOW	77.376
CLOSE	79.742

4日	RBAが政策金利据え置きを発表すると、初動の豪ドルは買い優勢で反応。しかし、事前の利下げ期待はほとんどなかった事からすぐに上値は抑えられた。声明文では「インフレ率はしばらくの間かなり低い」「金利据え置きはCPIの長期的な目標達成と合致」「金利据え置きは持続的成長と合致」「経済指標は短期的な雇用拡大の継続示す」「豪ドル高が経済的な調整を複雑化する可能性」「政策スタンスを変更しない事が経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成する事に一致すると判断」「住宅向け融資の伸びはこの1年で鈍化」「住宅市場の売上高は減少している」「賃料の伸びは数十年で最も厳しい」とされ、住宅市場の過熱感に一服感が出つつある様子が示された事で、豪ドルは次第に軟化した。
5日	豪8月小売売上高が前月比+0.4%と市場予想(+0.2%)よりも良好だった事から豪ドル/円は上昇。さらに、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計において、原油在庫が増加予想に反して減少していた事を受けてNY原油先物が上昇した事や、NYダウの堅調さを眺めて上げ幅を拡大した。
10日	プーチン露大統領が「(原油について)ロシアは増産凍結、もしくは減産の用意がある」とコメントした事が伝わると、原油価格が上昇。豪ドル/円もこれを眺めて上昇した。
18日	RBA議事録において「住宅市場と労働市場にかなりの不確実性がある」「今回の金利据え置きはインフレや成長目標と一致していると判断」「豪ドル高は経済の均衡を複雑化する可能性」などとの見解が示された。目新しい点はなく、利下げ期待を高めるものではなかった事から、発表後の豪ドル/円は上昇した。
20日	豪9月雇用統計は、失業率が5.6%(予想:5.7%)となるも、新規雇用者数は正規雇用の減少が響いて0.98万人減(同:1.50万人増)、労働参加率は64.5%(前月:64.8%)となった。これを受けて豪ドル売りが優勢となった。
26日	豪7-9月消費者物価指数は前年比+1.3%と市場予想(+1.1%)を上回った事から、豪ドル/円は上昇。基調インフレ率は前年比+1.50%と予想(+1.55%)を下回っており、80.30円台で一旦は上値を押さえられた。

日経平均

OPEN	16566.03
HIGH	17461.03
LOW	16554.83
CLOSE	17425.02

NYダウ平均

OPEN	18279.60
HIGH	18399.96
LOW	17959.95
CLOSE	18142.42

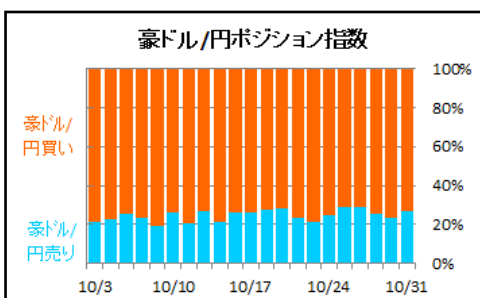
上海総合指数

OPEN	3020.457
HIGH	3137.034
LOW	3014.620
CLOSE	3100.492

豪10年債利回

OPEN	1.908%
HIGH	2.393%
LOW	1.908%
CLOSE	2.349%

10月のポジション動向



11月の豪州・中国の注目材料

- ・10月中国製造業PMI(1日)
- ・RBAキャッシュターゲット(1日)
- ・9月豪住宅建設許可件数(2日)
- ・9月豪貿易収支(3日)
- ・9月豪小売売上高(4日)
- ・10月中国貿易収支(8日)
- ・10月中国消費者物価指数(9日)
- ・10月中国鉱工業生産(14日)
- ・10月中国小売売上高(14日)
- ・RBA議事録(15日)
- ・10月豪雇用統計(17日)
- ・10月豪住宅建設許可件数(30日)

11月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

11月1日の本稿執筆中に、RBAは金融政策の据え置きを発表した。物価の引き上げよりも住宅市場の過熱感沈静化を狙ったものであり、当面の金融政策は引き続き据え置きになる公算が大きい。そうした中では、豪ドル/円が豪州の指標によって継続的なトレンドを形成するのは難しいと考えられる。11月は外部の材料や原油価格の動向などを主な手掛かりに、方向感を模索する流れとなりそうだ。

そうした意味で、注目される外部要因としては、米国の大統領選挙や、OPECでの減産合意の行方を受けた原油先物、中国景気の動向などが挙げられる。特に8日の米大統領選挙に関しては、共和党の大統領候補トランプ氏が当選という事になれば、金融市場全体のリスク要因視され、豪ドル/円は急激かつ大幅に下落する可能性があるため、要注意だ。一方、民主党クリントン氏が当選となれば、市場はリスクイベントの通過を好感して、リスクオンムードが広がるものと見る。ただし、クリントン氏についてもトランプ氏ほどではないにしても政策に保護主義的な要素があるとみられ、資源国や新興国にとって、手放して喜べる相手ではない。したがって、この場合のリスクオンムードは継続性には欠け、それ以上の手掛かりは米国以外に求めていく流れになりそうだ。

なお、豪ドル/円は上昇傾向が続いた場合、まず6月24日や7月15日に跳ね返された81円台半ばを試す事になる。ここを突破できれば、テクニカル的には一段と上昇余地が拡大すると言えるだろう。(石川)

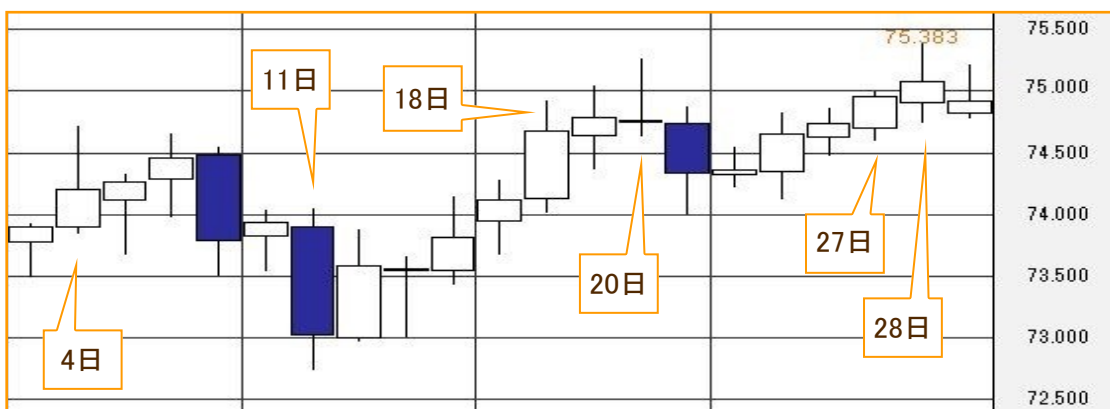
(予想レンジ: 74.500~83.000円)

NZドル/円 10月の推移

NZD/JPY

10月のNZドル/円相場は72.753～75.383円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の上昇(NZドル高・円安)となった。

NZドル円は一時72円台後半まで値を下げる場面こそ見られたものの、NZ7-9月期消費者物価指数の上振れや、トランプリスク後退と市場が見る中でのリスクオンムードも追い風となってジリジリと上昇。しかし11月のNZ中銀(RBNZ)理事会での利下げが視野に入的过程中で75円台前半では上値が重い状態だった。



四本値

OPEN	73.790
HIGH	75.383
LOW	72.753
CLOSE	74.921

4日	アジア・欧州市場中は主要国株価が堅調に推移する中でNZドル/円は上昇。しかし、NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比-3.0%となった事や、一部報道によって欧州中銀(ECB)のテーパリングの可能性が示唆された事を受けてリスク回避ムードが強まった事が重石となって、NY市場の引けにかけては上げ幅を消した。
11日	マクダーモットRBNZ総裁補が18日に発表されるNZ7-9月期消費者物価指数について「低水準に留まる」とし、「世界経済の低迷がNZドルの下支え要因になっている」とコメントすると、市場は総裁が追加緩和の可能性を強調したと受け止め、NZドル/円は下落。さらに主要国株価が全般的に軟調だった事で、NZドル/円は一時72.753円まで値を下げた。
18日	NZ7-9月期消費者物価指数が前年比+0.2%と予想(+0.1%)を上回った事で早朝から上昇。なお、NZ乳業大手フォンテラのGDT物価指数は前回比+1.4%となったが、NZドルに目立った反応は見られなかった。
20日	アジア市場中、発表された豪9月雇用統計は予想よりも弱い結果となり、豪ドル/NZドルで豪ドル売り・NZドル買いが出ると、NZドル/円でもNZドル買いが一時優勢となった。
27日	NZ9月貿易収支は14.36億NZドルの赤字と、予想(11.45億NZドルの赤字)よりも弱い結果となった。ただし、この結果を受けたNZドルの動きは限定的だった。
28日	NZドル/円は一時75.383円まで上昇したが、民主党・大統領候補のクリントン氏の私用メール問題について、米連邦捜査局(FBI)が再捜査をする事を明らかにすると、トランプ大統領実現リスクが意識され、上げ幅を縮めた。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	16566.03
HIGH	17461.03
LOW	16554.83
CLOSE	17425.02

NYダウ平均

OPEN	18279.60
HIGH	18399.96
LOW	17959.95
CLOSE	18142.42

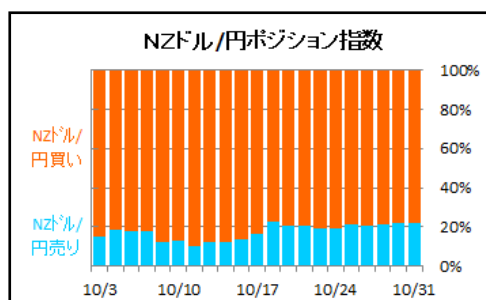
上海総合指数

OPEN	3020.457
HIGH	3137.034
LOW	3014.620
CLOSE	3100.492

NZ10年債利回

OPEN	2.281%
HIGH	2.719%
LOW	2.279%
CLOSE	2.728%

10月のポジション動向



11月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(1日、15日)
- ・7-9月期NZ失業率(2日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(9日)
- ・7-9月期NZ小売売上高指数(14日)
- ・7-9月期NZ生産者物価指数(16日)
- ・10月NZ貿易収支(24日)
- ・10月NZ住宅建設許可(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

11月の見通し

まずは11月8日の米大統領選挙が大きな波乱要因となるだろう。トランプ大統領が実現すれば、先行きの不透明感が強く意識され、大きなリスクオフの流れの中でNZドル/円は大きく下押す公算が大きい。ただ、クリントン大統領誕生となれば、一旦株高→クロス円高で反応した後は、市場は他の手掛かり材料を模索する事となる。

米大統領選後のNZドル/円にとって11月の最も大きなイベントは、日本時間11月10日午前5時の政策金利発表だ。エコノミスト予想では0.25%利下げして1.75%とするとの見方が大勢で、すでに金利先物市場でも概ね織り込まれてしまっている状態である。予想通りの利下げであれば、市場は大きく反応せず、注目は声明文で一段の利下げの可能性を示唆するかどうかになる。9月のRBNZ理事会後、ウィーラーNZ中銀総裁は金利の見通しについて「現在から35bpの追加利下げを見込んでいる」とコメントした。つまり、11月利下げを行えば、さらにあと1回利下げがあるかどうか微妙だという見方を示したわけだが、8月から9月前半にかけて大幅に上昇していた乳製品価格が9月後半以降は落ち着きつつある点などを勘案して、追加利下げにやや傾いた見方を示す可能性がある。総裁の見解の変化に注目したい。(石川)

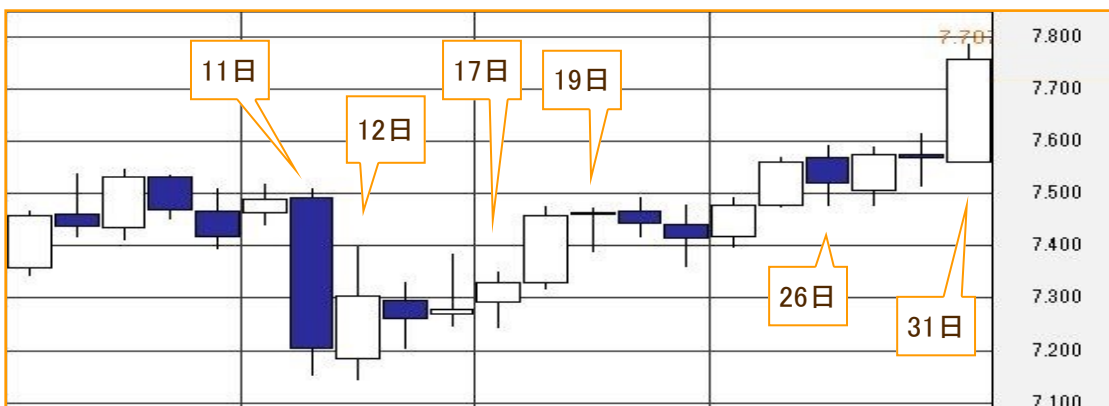
(予想レンジ: 72.000~77.500円)

ランド/円 10月の推移

ZAR/JPY

10月のランド/円相場は、7.147～7.787円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.2%の上昇（ランド高・円安）の推移となった。

9月の間は落ち着いていた「ゴードン財務相が国税庁長官時代にスパイ部門を設立した」とされる問題だったが、ゴードン財務相が再び追及される懸念が11日に再度浮上した事で、ランド/円は一時急落。しかし、翌日には検察庁長官から方針見直しの可能性が示唆されたことから徐々に下げ幅を圧縮。26日には経済成長見通しの引き下げなどもあったが、月末にかけて米大統領選での「トランプリスク後退」と見るムードが広がり、クロス円全般的に円売り優勢になった事なども追い風となり、ランド/円はプラスで月を引けた。



四本値

OPEN	7.361
HIGH	7.787
LOW	7.147
CLOSE	7.760

11日	南アの一部通信社が、同国検察当局がゴードン財務相に対して1月2日に裁判所に出頭するよう命じる召喚状を出したと報じた事を受け、ランド/円は失速。さらに、NYダウ平均の下落を受けて円が買われた事も重石となった。
12日	南ア検察庁のアブラハムス長官が、ゴードン財務相に対する裁判所の出頭命令に関し「ゴードン氏はこの問題で私に申告書を提出し、方針の見直しを求める事は可能。その場合、私は間違いなく検討する」と発言した事などが好感され、ランド/円は上昇した。
17日	ランドは、ゴードン財務相関連の続報がない事からまとまった規模のショートカバーが入り、上昇した。
19日	南ア9月消費者物価指数は前年比+6.1%（予想：+6.2%）、コア前年比は+5.6%（同：+5.7%）と予想を下回った。ただしこれに対するランドの反応は特に見られなかった。
26日	南ア財務省が発表した中期予算における財政見通しにおいて、経済の鈍化と税収の減少に直面しているとし、2016年の経済成長見通しを+0.5%（従来+0.9%）に引き下げた。これを受けて南アランドは下落した。
31日	ゴードン財務相に対する詐欺罪の疑いについて、検察官が起訴を諦めるのではないかとこの可能性が意識され、ランドに買いが集まると、ランド/円は7.787円まで急上昇。その後発表された南ア9月の貿易収支は67億ランドの黒字と予想（6億ランドの赤字）に反して好結果だった事などもあり、7.787円まで値を伸ばした。

日経平均

OPEN	16566.03
HIGH	17461.03
LOW	16554.83
CLOSE	17425.02

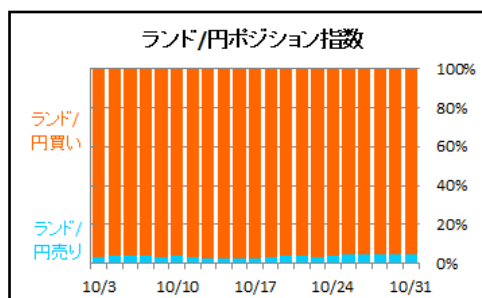
NYダウ平均

OPEN	18279.60
HIGH	18399.96
LOW	17959.95
CLOSE	18142.42

N Y 金

OPEN	1321.00
HIGH	1322.60
LOW	1243.20
CLOSE	1273.10

10月のポジション動向



11月の南アフリカの注目材料

- ・9月南ア小売売上高(16日)
- ・10月南ア消費者物価指数(23日)
- ・SARB政策金利発表(24日)
- ・10月南ア生産者物価指数(24日)
- ・10月南ア貿易収支(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

11月の見通し

南アのゴードン財務相を巡る問題について、10月後半からはあまり材料が出ず、これがランドの買われる要因になった。しかし、問題が解消されたわけではない。今後も関連報道があり、ゴードン財務相に不利と判断される内容であればランド売り材料、有利と判断される内容であればランドの買い材料になってくると見られる。また、南アの経済成長見通しの引き下げなどもあり、格付け会社による南アの格下げリスクも依然として高い。何もなければジリジリと上昇するが、何かあった時には大幅かつ急激に下落する、という可能性を引き続き意識しておくべきだろう。

また、8日に行われる米国の大統領選挙にも警戒が必要だ。トランプ大統領が実現すれば、これは金融市場全体で大きなリスク要因視され、ランド/円は急落する可能性が高い。月初の時点で選挙人の数の上ではクリントン氏が有利とはされているが、支持率は拮抗しており油断はできない状態だ。(石川)

(予想レンジ: 7.200~8.100円)